



けむりはどうして目にしみるの

けむりは小さな固体や液体のつぶ

自動車の排気ガスのけむりは、白っぽい色や、黒っぽい色をしているのがあります。落ち葉を燃やしたときには、白っぽくて青いけむりが出ます。けむりの色にはいろいろありますが、けむりは、空気中に小さな固体や液体のつぶがうかんだものです。

ふつうの固体や液体なら地上に落ちてしまいますが、けむりのつぶをつくっている固体や液体は、空気中にうかぶことができるほど小さなものなのです。

落ち葉を燃やしたときなどに出るけむりが、目に入ってしみるのは、けむりをつくっているものが、落ち葉が燃えてできた目にしみる、固体や液体の小さなつぶだからです。この小さなつぶが、目をしみらせるものからできているものほど、目がしみます。

ドライアイスのけむり

ドライアイスは、ふつうは気体の二酸化炭素を固体にしたもので、食品などがくさらないようにするための、冷きやく剤として使われています。

ドライアイスに水を入れると、白いけむりがさかんに出ます。このけむりは、ドライアイスが気体の二酸化炭素が変わるとき、まわりの空気中の水蒸気を霧(小さな水のつぶ)に変えたからです。この白いけむりは、霧なので、目に入ってもしみません。

(監修・小川 格)

